

神学校週間によせて

2017年6月25日〔日〕～7月2日〔日〕

神学校週間…1978年日本バプテスト連盟全国壮年会連合 第1回総会にて1979年度より6月第4週の1週間を「神学校週間」とすることが決議されました。

収穫の主に願う祈りを



東京バプテスト神学校
校長 坂元幸子

「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるよう、収穫の主に願います。」(マタイ9:37-38)

神学校週間、それはこの主のお言葉にこたえて収穫の主に願う祈りを分け合う時です。

まず神学校を覚える祈りです。日本バプテスト連盟の協力伝道の働きでは3つの神学校がそれぞれ多様なあり方で献身者育成を担っています。私が仕える東京バプテスト神学校は北関東・東京・神奈川の三連立ですが、日本全国からライブや通信で学ぶ方々がいます。変わりゆく時代の中で学びの場の多様性は主の体なる教会の豊かさでもあります。

次に1人ひとりの神学生のための祈りです。1人ひとりの召命と献身はそれぞれにユニークです。女性、男性、若者、退職者、外国籍の方、それぞれの人にはそれぞれの歩みと学びがあります。その学びを支えるのが諸教会の祈りそのものである奨学金(神学校献金)です。学ぶ者と献げる者、両者は収穫の主にあつて共なる1つの働きとされています。

そしてこれらを統合するのが伝道者養成の祈りです。バプテスト教会は教職制を持たず牧師も積極的な意味で1人の信徒であることを喜ぶ群れです。であるからこそ教会専従者となる牧師の養成には、厳しい自己吟味と愛に満ちた他者からの評価、そして相應しい養成過程が必要です。

1人の人の召命は教会の招聘という祈りの具体の中で職務となり牧師が立てられます。そこから生涯をかけて牧師となり続ける、否、教会によってならせていただき続ける歩みが始まるのです。その意味で、神学校週間は壮年連会連合の推進のもと、各個教会が1つとなって取り組む伝道者養成の働きなのです。収穫の主に願う、祈りを分け合い、お献げください。

神学生の証し

九州バプテスト神学校へ導かれて

九州バプテスト神学校牧師コース1年生

後藤 寿(各務原バプテスト教会推薦)



いつも九州バプテスト神学校を覚えて熱い祈りとご協力を感謝します。

さて、私が所属している教会は各務原バプテスト教会と言います。会員のほとんどが、日本に働きに来ているブラジル人とペルー人です。私は2009年に、ポルトガル語でメッセージを聞きたいという理由で、この教会に集うようになりました。そのころ私は同盟福音キリスト教会の会員でしたが、子どもが自立したら、宣教師の働きを助けるためにブラジルに住むことが私の長年の祈りの課題でした。私は約半年間、各務原バプテスト教会でポルトガル語に慣れた後、ブラジルへ行きました。しかしその半年後に、団体の宣教方針の変更により、宣教師が一時帰国することになり、私も失意のうちに帰国しました。

私は、主に用いられなかったと苦しみながらも、各務原バプテスト教会の礼拝に出席しましたが、教会の事情は全く変わっていました。リーマンショックの影響により多くのブラジル人が帰国し、礼拝出席者は激減し、その後も毎年数名が帰国するという状況が続いていました。ブラジル人牧師が帰国した後は、次の牧師を呼ぶ経済力もなく、数人の兄弟によってメッセージをする事になりました、私もそこに加わりました。

月に1度、名古屋バプテスト教会の池田義典先生が、メッセージと主の晩餐式のために来てくださっていました。先生は私に九州バプテスト神学校で学び、教会のために働くことを勧めてくださいました。私は、主のみこころを求めて3週間祈り、「主がお入り用ならば私を用いてください」と祈り、九州バプテスト神学校での学びが始まりました。

今年4月より、牧師コースへ入学が許され、牧師への献身が2年間の学びと教会生活を通して、より鮮明になる事を願いつつ備えの時として励みたく願っています。



「キリスト教社会倫理」授業

私でよいのですか

東京バプテスト神学校神学専攻科

芦沼光雄(ふじみ野バプテスト教会推薦)



「主よ、私で本当に良いのですか。今も私の心の中にある問い掛けです。」

5年前、定年退職を機に神学本科に入学させていただきました。「献身」という言葉は頭の片隅にあったものの、自分のこととしては捉えておりませんでした。神学って何だろう、伝道って何だろう、教会って何だろうとの思いから、聖書や、礼拝、バプテストの歴史などを学んでみたいとの思いからでした。現在、囑託として働いています。年を取り、記憶力も弱まり、仕事で疲れる毎日、やめたいと思うことも度々でした。しかし、学びを続けることで、求めていた知識だけではなく、今までの信仰生活を振り返る良い機会となりました。

なんとなく知識として知っていた事柄が根本のところまで繋がって、神さまへの思いがより深いものへと導かれました。献身を表明した今も冒頭の言葉が頭のどこかにあります。でも私の心は「主よ、私のような者でも、み心ならばあなたの御用に用いてください」との祈りに変えられました。

難しい授業も先生方の熱心なご指導により喜びに変えられ、私には過分と思える力をいただきました。自分のできることをさせていただきと祈ります。そして、多くの方々に祈られていることを覚える時、心に感謝があふれます。

今日も仕事場から神学校へ足を向けます。ギリシャ語の動詞変化である「オー、エイス、エイ オメン、エテ、ウーシン」と暗唱しながら。



「教会形成論」ライブ授業



み言葉に生きるために

西南学院大学神学部 選科3年

加山 献(新潟主の港キリスト教会推薦)



主の名を賛美いたします。神学部を、そして神学生1人ひとりを覚えてくださる心から感謝いたします。全国諸

教会の皆さまの祈りに支えられ最終年度を迎えました。研修生時代を含めると丸4年、西南学院大学神学部で学ぶことが許されました。聖書学(新約/旧約の原典と釈義)、組織神学(教義学、特にバルト)、歴史神学(教会史、教理史、バプテスト史)、実践神学(説教学、礼拝学、宣教学、教会形成論)など、振り返ると驚くほど多岐にわたる科目を教えていただき、学びことは出会ったことでした。自分自身の内面と向き合い、本当の自分の姿に出会うことでもありました。また、今まで自分が思い描いていたキリストのイメージを一度リセットし、聖書がリアルに語っているキリストとの出会いを求めはじめました。私はまだ聖書の語るキリストと、彼の語った福音を追求し続けていると申し上げるほうが正しいと思います。私は西南で一生ものの宿題をいただいたような思いです。いつか、主にまみえるその日まで、この課題を追い求めていくことのできる幸いを感じています。

最近、心に響くみ言葉があります。「御言葉を行う人になりなさい。自分を欺いて、聞くだけで終わる者になつてはいけません」(ヤコブの手紙1章22節)。西南で学んだことを学んだだけで終わるのではなく、しっかりと実践できるものとされていきたいです。



「新約原典」のクラス

奨励《神学生教育と伝道者養成のために》

天野 有（西南学院大学神学部長）



全国の諸教会・伝道所の兄弟姉妹の皆さま、いつも祈りの内に支えてくださり、ありがとうございます。さて、始業礼拝・開講講演(4月6日)から一カ月半が経ちました。しかし、特にここ数年間の神学部の歩みを繰り返し想起しながら、今、私共には、神学部全体としてかなり明確な思いが与えられているように感じております。その思いについては『神学部報』巻頭言に詳しくお書きしましたが、ここでは、その同じ思いを、若き宗教改革者(ルター)の言葉を引用することで伝えさせていただきます。それは「牧師」について語ったものです。「あらゆる配慮のうちで最大にして第一のものは――それを私はあなた方の心の中に炎の文字で書き記しうるだろう――、牧師たちが何はさておき真理の言葉をたっぷり届ける、とい

うことである。〈神の言葉〉ではなく〈人間の言葉〉が証しされているところでは一体何が生まれるだろう！　そこで語られる〈言葉〉どおりに誕生は起こり、その誕生どおりに神の民は形成されるのだ。主の使者であり、〈神の言葉〉と共にこの民に先立ち歩み、神による誕生のためにこの民に仕える者、ただそのような者だけが牧師である。教会は、〈神の言葉〉から・〈神の言葉〉によって、以外の仕方では、その本質に従って誕生し、また存続することはない(ヤコブの手紙一18)」(H・J・イーヴァント『ルターの信仰論』)。神学部は、「外に向かつての奉仕のための(神の言葉への内的)集中」(D・ボンヘッファー)を実践する主イエス・キリストを中心とした交わりへと――悔い改めつつ――「心を新たにして」(ローマの信徒への手紙一二2)歩み始めています。今後も、更なるお祈りをお願い申し上げます。

2017年度神学校週間にあたって

全国壮年会連合副会長（神学校献金推進担当） 野口正俊（志村バプテスト教会）

神学校週間(2017年6月25日(日)～7月2日(日))は、日本バプテスト連盟、全国壮年会連合において「伝道者養成の業への参与」の具体的な働きを覚える重要な「週間」となっています。また、伝道者を送り出すことも教会形成の重要な働きの一つであることから、神学校献金(神学生奨学金献金)推進への取り組みは「教会形成を担う壮年の働き」とも不可分であることは言うまでもありません。

そのため私たち壮年は、あらたな伝道者を生み出し、神学生を支える働きのために用いられることを大きな願いの一つとしております。

しかし、神学校献金(神学生奨学金献金)推進は決して壮年たちだけの業ではありません。その働きは、信徒一人ひとり、教会・伝道所一つひとつに主によって与えられた業でもあるのだと思います。

全国壮年会連合は様々な場において、西南学院大学神学部学生奨学金制度奨学金の財源確保のために、さらに連合立等神学校(東京バプテスト神学校専攻科、九州バプテスト神学校牧師コース)に設けられている神学生奨学金制度の支援のために神学校献金(神学生奨学金献金)を全国の諸教会に呼びかけ、推進しています。

ご存知の通り、無牧師の教会・伝道所が増える傾向にあります。必要とされる伝道者を満たすためには、西南学院大学神学部だけでも毎年25名以上の神学生を送り出したいと願っております。ひとりでも多くの献身者が送り出され、ひとりでも多くの伝道者が生み出されるようにとの願いを持って神学校週間を迎えましょう。

西南学院大学神学部(大学院生含む)、東京バプテスト神学校、九州バプテスト神学校において伝道者を目指して学ぶ神学生のために祈りましょう。また、送り出してくださる教会・伝道所のためにも祈りましょう。

神学校献金（神学生奨学金献金）の推移	
年度	献金額
2009年度	2,411万円
2010年度	2,325万円
2011年度	2,345万円
2012年度	2,228万円
2013年度	2,292万円
2014年度	2,284万円
2015年度	2,227万円
2016年度	2,235万円

西南学院大学神学部及び東京・九州両バプテスト神学校で学ぶ神学生	神学生氏名（学年、よみ、推薦教会）
---------------------------------	-------------------

【西南学院大学神学部】 21名　　＜2017年度奨学金貸与者数：15名＞	
博士後期	城 俊幸(3年・たちとしゆき・西戸崎(牧師))
博士前期	泉 選也(2年・いずみ えりや・下関(牧師))、福久織江(2年・ふくひさ おりえ・函館)、三上 充(2年・みかみ まこと・金沢)、元川信治(2年・もとかわ しんじ・調布)、平野健治(1年・ひらの けんじ・大井)、永山辰原(1年・ながやま ときはら・福岡西部)、伊原幹治(1年・いはら かんじ・福岡ベタニヤ村)
専攻科	伊藤真嗣(いとう まさつぐ・相模中央)、遠藤光子(えんどう みつこ・別府国際)
学部神学コース	川久保拓也(4年・かわくぼ たくや・ふじみ野)、カandel ジャナク(4年・かんでる じゃなく・福岡新生)、杉本拓哉(4年・すぎもと たくや・宇都宮)、黄 善楨(4年・ふあん そんぢょん・単立 福岡盤石)、小櫻 信(3年・こざくら まこと・大阪)、高橋周也(3年・たかはし ひろや・花小金井)、西本詩生(3年・にしもと しなる・恵泉)、安里道直(2年・あさと みちなお・東風平)
選科	加山 献(3年・かやまささぐ・新潟主の港)、原田 賢(2年・はらだ けん・大宮)
神学部研修生	諸岡寛(もろおか ひろし・平尾)

【東京バプテスト神学校】 9名　　＜2016年度奨学金支給予定者数：6名(第1回連盟理事会にて決定)＞	
神学専攻科	郭 淑(かく しゅく・厚木国際)、澁谷和美(しぶたに かずみ・那覇新都心)、林 雄植(いむ うんしつ・渋谷)、中根 浄(なかね きよし・花小金井)、大野 夏希(おおの なつき・大泉)、陳 ピルラン(ちん びるらん・茂原)、芦沼 光雄(あしぬま みつお・ふじみ野)
教会教育専攻科	田中宜之(たなか のぶゆき・筑波)
教会音楽専攻科	澤田ルツ子(さわだ るつこ・千葉)

【九州バプテスト神学校】 7名　　＜2016年度奨学金支給予定者数：3名(第1回連盟理事会にて決定)＞	
牧師コース	香月太郎(かつき たろう・早良)、田口圭子(だぐち けいこ・長崎)、中村聖架(なかむら きよか・長崎)、竹下由美子(たけした ゆみこ・単立なごみグレースチャーチ)、田口清吾(たぐち せいご・岐阜)、飛永 孝(とびなが たかし・福岡城西)、後藤 寿(ごとう ひさし・各務原)

【神学校献金(神学生奨学金献金)について】

【名称】神学校献金は従来から、西南学院大学神学部で学ぶ神学生(大学院生も含む)の授業料と生活費の一部を支えるため、奨学金という形で用いられてきましたが、2012年の連盟定期総会において連合立等の神学校で伝道者となるために学ぶ神学生にも用いられることになりました。そこで「神学校献金」の使途を明確にするため、2013年度より「神学校献金(神学生奨学金献金)」という名称に変更いたしました。

【使途】西南学院大学神学部神学生の奨学金並びに東京バプテスト神学校(専攻科)及び九州バプテスト神学校(牧師コース)で伝道者になるために学ぶ神学生に用いられています。

【内容】西南学院大学神学部神学生には1種奨学金の貸与と2種奨学金の給付をしています。東京バプテスト神学校と九州バプテスト神学校の神学生には、授業料の一部を奨学金として支弁しています。

【返還】西南学院大学大学神学部神学生の1種奨学金は貸与ですから、返還の義務があります。ただし、卒業後4年以上伝道の業に従事し、卒業後10年以内に1種奨学金の2割以上返還した場合、その残額の返還は免除されます。2種奨学金は給付なので返還の必要はありません(奨学金規程による)。なお東京バプテスト神学校と九州バプテスト神学校の神学生については、両神学校の奨学金規程により返還の適否が判定されます。

【献げ方】毎年6月に行われる神学校週間を用いて献金される教会・伝道所が多いと思いますが、年間を通して神学校献金を献げているところも増えています。全国壮年会連合は本活動を積極的に推進していますので、壮年の皆さまにはぜひ教会に働きかけていただき、教会全体の業となっていくことを期待しています。具体的な働きは『壮年会連合ニュース』などでも紹介しています。